

# 進修同窓会報

発行 土浦一高進修同窓会 編集人 同窓会報編集委員会 委員長 遠藤俊夫 印刷 常陽新聞社



(大久保写真館提供)

- 目次
- 二面 平成七年度総会報告  
会長あいさつ
  - 三面 学校長あいさつ  
同窓会館兼アリーナ概要
  - 四面 第二回創立一〇〇周年  
記念事業実行委員会総会報告
  - 五面 寄稿(栗栖三男氏)
  - 六・七面 支部だより
  - 八面 定時制部会報告  
PTA会長あいさつ
  - 九面 紹介(就任・受賞・叙勲等)
  - 十～十二面 母校だより

## 土浦一高校歌

堀越 晋 作詩  
尾崎 楠馬 作曲

- 一、沃野一望數百里 関八州の重鎮として  
そそり立ちたり筑波山 空の碧をさながらに  
湛えて寄する漣波は 終古渝らぬ霞浦の水
- 二、春の弥生は桜川 其の源の香を載せて  
流に浮かぶ花筏 蘆の枯葉に秋立てば  
渡る雁声冴えて 湖心に澄むや月の影
- 三、此の山水の美を享けて 我に寛雅の度量あり  
此の秀麗の氣を享けて 我に至誠の精神あり  
東国男兒の血を享けて 我に武勇の氣魄あり
- 四、筑波の山のいや高く 霞ヶ浦のいや広く  
嗚呼 桜水の旗立てて 我が校風を輝かせ  
亀城一千の健男兒 亀城一千の健男兒

# 平成七年度 進修同窓会総会開かれる

四月九日(日)、本年度定期総会が母校体育館にて、二百八十余名の会員出席のもとに盛大に開催された。

校歌斉唱・物故会員に対する黙禱ののち、幡谷会長・青山校長の挨拶があり、酒井亨氏(中47)を議長に以下の議事が審議された。

- 一、平成六年度事業報告並びに決算報告
- 二、平成七年度事業計画並びに予算



- 三、同窓会基金報告
- 四、別途積立金報告
- 五、九十周年記念事業募金預金現在高報告
- 六、役員改選
- 七、同窓会規約の一部改正
- 八、一〇〇周年記念事業について

全議案とも満場一致により可決・承認された。特に、八号議案については、

- 一、平成六年度会計報告
  - 一、現在までの募金状況
- など、詳しい報告があり、熱心に審議がなされた。

閉会の後、恒例の卒業周年祝賀会にうつり、中三三回・中四四回・中四五回・高七回・定五回・高二一回・定一九回の会員が、それぞれ卒業六十・五十・四十・二十五周年の記念の年を迎えられ、幡谷会長よりの祝賀・記念品贈呈があり、中四四回の横田尚義氏、中四五回の栗栖三男氏より謝辞が述べられた。

また、会場を変えての懇親会では、往時を懐かしんでの交歓が和やかな雰囲気のもとにくりひろげられた後、最後に、参加者全員で校歌を合唱し、来年の再会を約しつつ、それぞれ家へ職場へと散って行った。

## 会長あいさつ

同窓会会長 幡谷 祐一



母校は、まもなく創立百周年を迎えようとしております。その記念事業も、今まで各分野での会合などを経て、時間をかけて準備され、いよいよ大詰めに近づいてきました。

県の方もころよく応援して下さい。特に財政的には並々ならぬご配慮を賜りました。その他、所期の目標に向かって予定通り進んでいることはご承知の通りですが、特に募金につきましては会員の皆様の格別なるご努力をいただき、順調に進んでおります。誌上をお借りして、心からお礼を申し上げます。

私は会長就任以来、招待を受けた各同窓会の支部会の約九〇％には出席し、懇談して、今後のご協力をお願いして参りました。いま平成不況といわれている最中ではあります、記念事業の完成を目指して前進していることに對し、

心から感謝の意を表します。さて、私たちの土浦一高が、現在日本有数の進学校に成長したことは、とりもなわず教師、生徒が精神的にしつかりと結ばれ、一体となつていからだと思つてい

ます。各教科の内容や教科書が、特筆すべきものであるということではないでしょう。教師の生徒に對する人間的配慮、更に生徒の教師に對する信頼、そのようなことが相乗効果を生んで、今日の優秀校に成長したものと思われます。

次の時代を担う青年を育てる、これには学問よりも、人間、つまり人格の形成、これが一番大切なこととす。私は、自分の企業経営の背骨として「徳」をあげております。そのキャッチフレーズも「徳者企業之基」です。人に人徳が重要であるように、企業にも徳が求められる、これが私の変わらぬ考えであります。特に、私が経営にあたっている企業の一つ、金融機関にあっては、いずれも同じ価値

の千円札、一万円札の商品で競争しているわけですから、差をつけるのは社員の人間性の向上、人間形成、これ以外にないと信じて今日までやってきました。そこでは、人間関係が全てを制する、とも言えますので、対人の応接の大切さを強調しております。これからは益々機械化、省力化が企業全体を襲ってくることは必至です。しかし、基本は人と人との関係です。土浦一校で学んでよかつた後年

言われるように、教師の皆さんも、更に自分自身に磨きをかけ、生徒に對して誇れる教育をしていただきたいと願っております。私達同窓会会員もそれぞれの分野で、母校の對して胸を張つて自慢できるよう、社会や企業において、何事にも常に名誉を重んじていく所存でおります。

## 百周年記念誌 編纂委員会より

土浦一高百年誌は、第一編土浦一高百年の歩み、第二編懐かしき良きあの頃―時代を語る・精神を語る・語り継ぐ心、第三編百年後に向けて―未来への躍動―はばたき―の三編構成で現在原稿依頼、編集が進んでおります。

九六年六月頃までには、購入希望の申し込み受付を始める予定です。申し込みが多ければ頒布価格を低く設定できますので、ぜひご予約ください。



# 一〇〇周年に向けて記念事業の準備状況と同窓会・学校の動向

校長 青山和義



今年の夏は昨年に引き続き記録的な猛暑となりましたが、同窓会員の皆様には益々御健勝で活躍のこととお喜び申し上げます。

平成九年の創立百周年記念事業に關しましては、昨年七月の第一回実行委員会総会で承認された募金活動を出発点に、現在着々と準備を進めているところです。

現況を申し上げますと、まず、記念事業の中核となる「記念館」の建設につきましては、旧講堂を取り壊し、その跡に「同窓会館兼アリーナ」と県施設の「多目的学習館」の二棟の建設を計画として進めてまいりました。幸い、その「多目的学習館」の建設費が今年度の県予算に計上され、この秋着工の運びとなりました。これを受けて六月の建設委員会で対応を御検討いただいたところ、予算の節約、工期の短縮等の観点から、同窓会館兼アリーナも同時着工が望ましいとの結論を得、七月の実行委員会総会で承認されました。現

在は、土浦市の建築審査と建築業者選定の準備に関わっているところ。おそらく十月には工事が開始されることと思われ。これに關連して、募金状況は今年五月末で、学校への納入総額は約一億円でした。締切の六月末までに、目標額一億円の達成は困難と判断し、募金期間を一年延長することとしました。旧制中学と高校二十回あたりまでの会員の対応は順調なのですが、それ以後の若い世代の会員の動きが鈍いようです。この席を借りて、改めて、御協力をお願いいたします。

次に記念誌の作成については、十二名の担当者による記念誌編集委員会が、本格的に活動を開始しました。本校旧職員で、土浦市史編集委員長として御活躍された永山正先生の御助言を得ながら、沢山の方々に興味深く読んでもらうことを主眼に、過去・現在・未来の三つの柱で構成し、バラエティーに富んだ内容にすることとしました。

更に、九月からは校内の式典準備委員会が発足し、記念式典の期日決定、記念品及び記念講演会講師の選定などの準備に着手しました。今年中には式典委員会を開催し、原案の審議をお願いする予定で

記念事業につきましては、以上でひとまず措置、次に、この一年間の同窓生の御活躍や話題を、いくつご紹介させていただきます。

◇平成六年十一月  
同窓会長の幡谷祐一氏(旧中四十回卒)が第一回茨城県特別功績者表彰を受けました。

◇同年同月  
洋画家鶴岡義雄氏(旧中三十六回卒)が芸術院会員に就任しました。

◇平成七年七月  
山形県米沢市在住の医学博士、渡辺孝男氏(高校二十回卒)が、参議院選挙で新進党比例区より当選。

◇平成七年十月  
世界湖沼会議に堀越昭氏(高校十三回卒)が市民の会会長として参加。また、海老原順氏(本名 芳和 高校二十三回卒)がテーマソング歌手として活躍。

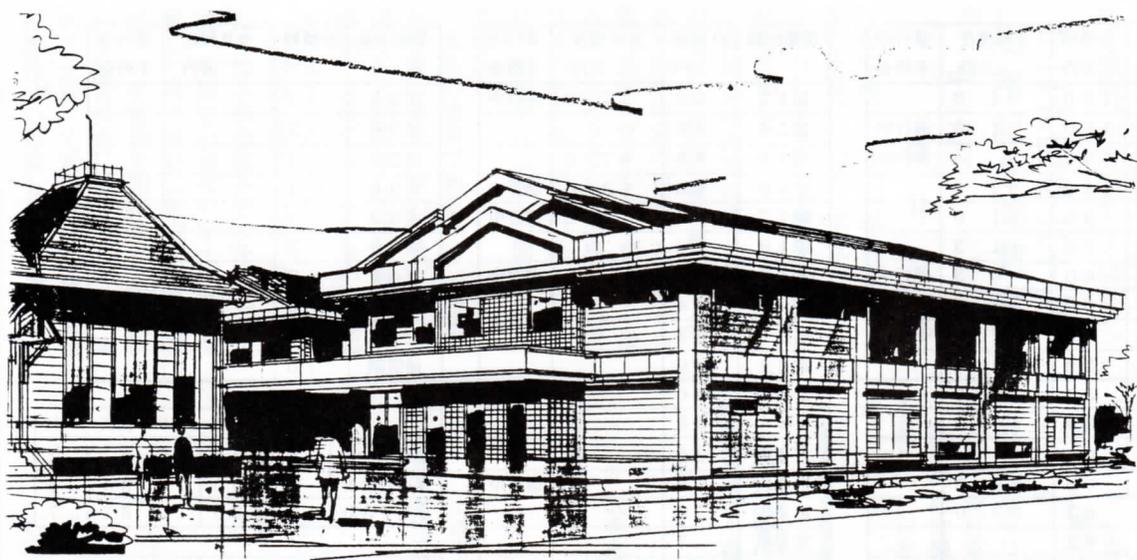
さて最後に、いま本校がかかえている二つの課題についても、お知らせしたいと思います。

一つは、学校週五日制の問題です。これは、生徒の学校生活にゆとりを持たせるとの趣旨のもので、本校の実情を考えますと、単純に授業時間を減らすことはできません。そのため、全日制では一コマ五十三分授業を実施していますが、今後も種々の検討が必要

な状況です。もう一つは、推薦入学の導入です。県教委の方針に従って、本校でも、来年度の入試から定員の十パーセントの枠で実施

する予定です。  
他のさまざまな分野と同様、教育界も改革の波に洗われ、新たな態勢の構築に腐心しております

が、教職員一体となって頑張つてゆく所存です。今後も、皆様の御支援をよろしくお願い致します。



**施設内容**  
(1階) 玄関ホール、アリーナ(メインバドミントンコート 1面、サブバドミントンコート 2面)、ラウンジ(食堂)、厨房  
(2階) 同窓会室(湯沸室含)、脱衣室・浴室(男・女)、等

**構造・規模**  
鉄筋コンクリート造、一部(アリーナ上部屋根部)鉄骨造 2階建  
1階床面積 526.94㎡  
2階床面積 206.54㎡  
屋階床面積 21.16㎡  
延べ床面積 754.64㎡

**建設場所**  
旧本館脇(南西側)講堂を解体撤去し、その跡地に、当進修同窓会館兼アリーナを建設する(隣接して、県費による多目的学習館が建設される)。

# 第二回創立一〇〇周年記念事業 実行委員会総会開催される

平成七年七月十四日、土浦観光ホテルにおいて、百七十余名参加のもと、第二回記念事業実行委員会総会が盛大に開催されました。参会者より心温まる助言・提案・激励を頂戴しましたが、以下、論議、報告された結果のみを記しておきます。

## ◇ 議事

(一) 同窓会館兼アリーナ建設  
ア 設計について  
会館設計にあたる石川伸広氏(高一三回)より、設計図をもとに会館の規模、各室内の用途などについて詳しい説明が行われた。

イ 施工について  
施工業者は入札により決定する。  
建設工事開始時期は、茨城県が本校に建設する多目的学習館のそれに合わせ、今秋とする。

(二) 多目的学習館建設  
茨城県が建設するもので、一、二階合わせて六〇〇平米、冷暖房完備の施設で、建設地は、創立50周年に建てた旧講堂を解体した跡地とし、同窓会館に隣接する。工事開始は今秋と目される。

(三) 募金について  
ア 募金状況  
特殊寄付、並びに各卒業回からの募金を合わせて、七月現在一億一千三百万円に達した。

## イ 募金期間の延長

募金活動は昨年七月に開始したが、目標総額二億円には遠く、募金期間を来年度(平成八年)六月三十日まで延長する。  
ウ 寄付金控除  
正規の領収書により、確定申告の際、税法の範囲内で寄付金控除(法人の場合は損金算入)が出来る。

(四) 百周年記念誌  
現在、校内の記念誌編纂委員会で作業が進行中。先に発行された土浦一高90年史を元に、新たに資料収集にあたり、B5版700頁相当のものを編纂する。  
印刷製本会社の選定は、記念誌編纂実行委員会に一任する。  
記念誌の名称、並びに内容等については、後日更に検討する。  
議事終了後、懇親会が催された。



## 一〇〇周年募金 で協力のお願

### 募金期間一年間延長

母校創立一〇〇周年記念事業として、実行委員会では、同窓会館兼アリーナの建設のため、目標額二億円の募金活動を進めてまいりましたが、募金状況は別表のとおり、同窓諸兄弟の母校愛に発する尊いご高志を賜わり、九月現在、目標額の約七割の線に達しました。関係各位のご努力に対し、心から厚く御礼申し上げる次第であります。

同窓会館兼アリーナの建設は、茨城県が平成七年度中に別途建設する多目的学習館と同時進行の必要があるため、建物の配置、設計等について、先般、建設委員会や実行委員会の検討が終了し、諸手続きのうえ、間もなく建築着工の運びとなります。

資金の募金につきましても、募金期間の一年間延長の手続きを完了し、平成八年六月三十日までとなりました。所得税、及び法人税の寄付金控除については、前年同様の扱いとなります。今後の募金活動は仲々骨の折れる段階であるように思われますが、期間内には是非とも目標額を突破できることをお願いいたします。諸兄弟におかれましては、募金の推進につき、一層のご助言ご協力を賜わりたく、また、特に高二一回卒以降の格段のご協力をお願いいたします。

卒業回数	目標額 万円	9月現在 万円	進行中 手持金
高38, 理数15	160	64.0	
高39, 理数16	150	1.5	進行中
高40, 理数17	150		進行中
高41, 理数18	110	62.8	
高42, 理数19	90	51.0	
高43, 理数20	70	11.3	
高44, 理数21	60	0.3	進行中
高45, 理数22	50	53.2	
高46, 理数23	50	57.9	
高47, 理数24	50	34.5	
定1	34	22.0	
定2	59	44.0	
定3	61		
定4	59	48.0	
定5	63	33.0	
定6	62		
定7	68	51.0	進行中
定8	62	1.0	
定9	82		
定10	69		50
定11	71		28
定12	57		

卒業回数	目標額 万円	9月現在 万円	進行中 手持金
定13	53	34.0	進行中
定14	38		
定15	86	67.0	
定16	66	12.0	進行中
定17	76	11.0	進行中
定18	74		
定19	73	12.0	進行中
定20	64		
定21	63		
定22	60		
定23	50		
定24	36		
定25	22		
定26	18		進行中
定27	8		
定28	7		
定29	6		
定30	4	3.0	
定31	4		
定32	2		
定33	3		
定34	2		

卒業回数	目標額 万円	9月現在 万円	進行中 手持金
定35	3		
定36	3		
定37	1		
定38	1		
定39	2		
定40	2		
定41	2		
定42	2	2.4	
定43	2	2.1	
通信制	20		

	目標額 万円	9月現在 万円
全日制合計	16,930	10,472.2
定通制合計	1,600	342.5
卒業生合計	18,530	10,814.7

篤志寄付	2,956.0
現職員	76.6
旧職員	176.5
篤志寄付合計	3,209.1

募金高総合計	14,023.8
--------	----------

# 卒業周年記念祝賀会と 動員学徒の集いに参加して

中四十五回 栗 栖 三 男

平成七年四月上旬、卒業五十周年と戦後五十年にちなみ、中四十五回同窓生が関わった二つの行事から、その印象を綴ってみました。

○一高行きバス停は何処見回せば桜古木の花蔭の下(中山福雄君 詠)

四月九日、卒業周年記念祝賀会に臨むべく、同窓生六十余名が母校を訪れた。

桜花満開の旧本館前庭に集いての、一同の記念写真撮影の時には、戦時色の服装で撮ったセピア色の卒業写真が脳裏に浮かび、激動の時代変遷を思いつつ感慨無量……

この度の祝賀会には、五十年間として二つの学年が招待され、会場は例年になく盛況でした。

顧みるに中四十五回生の土浦中学入學は、昭和十六年、日米開戦の年。卒業は昭和二十年三月でした。往時の「教育二関スル非常措置方策」に則り、私たちに、在學四年間の繰り上げ卒業が施行され、中四十四回の先輩方と同年度の卒業となったのです。

爾来、今日までの社会生活においても、恩師はじめ土浦中学の先輩の方々、同窓生並びに後輩の皆様と親しく交誼出来得ますことは、戦時中の在學四年間とは言え、土浦中学に籍を置いたればこそその幸せと、しみじみ感じた卒業周年

記念の祝賀会でした。

○往年の女学生らとよすがえて集ふ日きたれり戦後五十年(自 詠)

四月十日、春爛漫、桜花乱るる陸上自衛隊霞ヶ浦駐屯地内の大講堂(右穂町)に、中四十五回生と土浦高女三十九回生の元生徒一三〇余名が参集、「第一海軍航空廠

動員学徒の集い」を開催しました。両校元生徒は、共に昭和二十年卒業、旧航空廠を訪れたのは、戦後初めてのことでした。この企画の発案は東進土中四五回幹事会。その後親和力を増して集いの輪が広がり、両校の共催となり、発起人会において、渡辺光夫君が実行委員長に推されたのです。

当日のスケジュール概要

○第一部 式典と記念撮影 開会宣言 平和祈念黙禱 来賓紹介 実行委員長挨拶 来賓挨拶(土一・土二高校長) 遠隔地参加者紹介 記念撮影

○第二部 体験喫食と想い出を語る 湖沼会議テーマソング紹介

○第三部 記念植樹

○第四部 想い出を語る会 旧工場へ 広報館の見学 記念誌発刊企画と寄稿の説明

○第五部 総合閉会式 集いの実現に向けて終始、ご援助をいただいた関係各位に厚く御

快き余韻を胸に満たして……

## ◆記念誌の発刊成る

記念誌の発刊は五十年目の終戦日を目標に、八月上旬完成をみま

した。「戦いのなかの青春」が、その書名です。委員長寄稿のまえがきには、「卒業式らしい卒業式を持ってなかった私たちの卒業記念誌であり、戦時下非常時に生きた少年少女の記録でもあり、回想録でもある」と記されています。

恩師の和田隆・山崎長次郎の両先生、並びに土浦一高青山和義・土浦二高大塚雄一の両学校長の寄稿文をはじめとして、元生徒たちの思い出と平和へのメッセージを掲載、貴重な写真集でもあります。その構成は、集い当日の記録・回顧録・動員時代の日記抄・思い出の写真集と資料、の四部門の二百余頁。

記念誌完成の感激止み難く、出版祝賀会を九月十日に開催。来賓、恩師、元生徒ら九十余名が霞ヶ浦観光ホテルの会場に集い、動員学徒記念誌の発刊を祝うとともに、親睦の輪を広げた祝賀会でした。さて、土浦一高は、やがて創立百周年を迎えようとしています。母校土浦一高の一層の発展と進修同窓会の更なる躍進を祈念申し上げて、終稿といたします。

## 募金目標額と現在の募金高状況

平成7年9月16日現在

卒業回数	目標額 万円	9月現在 万円	進行中 手持金
中22	中25	22.0	
中23	まで	21.5	
中24	100	62.0	進行中
中25		51.0	
中26	30	33.0	
中27	40	24.0	進行中
中28	50	84.0	
中29	40	70.0	
中30	50	71.0	
中31	60	101.0	
中32	70	97.5	
中33	80	158.0	
中34	60		進行中
中35	70	70.0	
中36	70	71.5	
中37	70	127.0	
中38	80		110
中39	90	125.0	
中40	110	180.0	
中41	110	127.0	

卒業回数	目標額 万円	9月現在 万円	進行中 手持金
中42	130	179.0	
中43	130	181.0	
中44	210		316
中45	200	249.0	
中46, 47	260		280
中48, 高1	340	328.0	進行中
中49, 高2	300	336.0	
併中1, 高3	450	583.5	
併中2, 高4	380		553
高5	340	522.0	
高6	400		494
高7	420	444.0	
高8	450	542.0	
高9	440	426.0	
高10	450	491.0	
高11	440		470
高12	440	506.1	
高13	450		進行中
高14	450		進行中
高15	460	582.0	

卒業回数	目標額 万円	9月現在 万円	進行中 手持金
高16	410	556.0	
高17	440		進行中
高18	510	626.0	
高19	510	389.5	進行中
高20	500	567.0	
高21	460	271.0	進行中
高22	440		進行中
高23	440	186.0	進行中
高24, 理数1	400		進行中
高25, 理数2	380		進行中
高26, 理数3	350		進行中
高27, 理数4	350	104.0	進行中
高28, 理数5	330	160.0	進行中
高29, 理数6	320		173
高30, 理数7	270	1.0	81
高31, 理数8	250		進行中
高32, 理数9	240	102.0	進行中
高33, 理数10	250	77.5	
高34, 理数11	240	52.0	
高35, 理数12	210	67.6	
高36, 理数13	190	66.0	進行中
高37, 理数14	180	45.0	

# 支部だより

## 水戸支部

我が土浦一高校歌に「終古渝らぬ霞浦の水」の一節があります。霞ヶ浦は、美しい景観、自然のおりなす造形美、そしてさまざまな恵みを与えてくれます。その湖が今重大な危機に立たされています。年々汚染が進み泥沼化して来ているのです。原因としていろいろと挙げられています。一つには家庭の雑排水・工場排水・網いけす・養豚糞尿・降水量の減少等があります。したがって、湖の浄化は、地域住民全体が関心を持って取り組むことでこそ、大きく前進できると思います。折りしもこの秋、「人と湖沼の調和」をテーマに、「世界湖沼会議95」が土浦で開催されます。人と湖沼の調和との観点から、国際的な視野で話し合い知恵を出し合って、この会議が実り多く大成功であること、心からお祈り致します。

本年七月に、土浦一高水戸支部総会が盛大に開催されました。特に今回は、世界湖沼会議イメージソングを唄われる海老原順様(高23回卒)御夫妻が参加されました。数々の歌を披露され、霞ヶ浦の話題で大いに盛り上がった次第です。支部長 幡合浩史(高四回)

## 美野里支部

平成七年六月四日、美野里支部

第十二回総会を、岩間愛宕山中腹の歌舞伎にて開催しました。来賓として幡谷祐一同窓会会長と青山和義校長を迎え、一高の輝かしい隆盛の現況報告と、創立一〇〇周年記念事業関係の挨拶の後、議事に入りました。七年度支部事業計画の大綱は、第一には支部の充実発展、第二には一〇〇周年記念事業に対する支部としての対応協力、第三には懇親を兼ねた研修旅行でしたが、全て円満の裡に議決され、その後懇親会に入り和気藹々の中に総会を終了しました。

支部の明るいニュースとしては、納場小学校長に高六回卒の川島忠利氏、堅倉小学校長に高十回卒の川島先則氏が就任され、また、姉妹都市米国カンサス州アピリーン市への訪問団团长として、中学生・高校生を含む十九名を引き連れて、素晴らしい実績をあげたことは、町に明るい活力を与えてくれました。町行政のみならず、会員の皆様が夫々の環境で頑張っているのは心強い限りです。これ全て輝かしい母校出身の自覚によるものと思います。

## 小川・玉里支部

支部長 木名瀬 博(中四一回)

新生の支部会が結成されてから四年が経過しました。毎年、支部会を開いて今年で四回を数えま

す。去る三月五日には、多数の会員の参加を得て、今年も支部総会を開催することができました。

郷土の大先輩であり、進修同窓会長でもある幡谷祐一先生、母校の校長青山先生に、ご多忙の折にもかかわらずご臨席を賜りましたこと、会員一同、本当に嬉しく感激を覚えました。

さて、支部長の挨拶に続いて、両先生から、母校のめざましい躍進のご報告や、創立百周年という、大きな節目に当たっての記念事業計画などを拝聴して、誇らしい雰囲気浸ったと同時に、支部もしっかりしなければならぬと誓いを新たにしました。

当日は、楽しく盛りあがった集いになり、同窓であるとい目に見えない絆で結ばれた同士が、在学中の思い出話やら、卒業後のそれぞれの軌跡など、懐かしそうに話し合っている姿に、役員苦労も報われたなと感じた次第です。最後に、声高らかに校歌を合唱し、再会を約して散会しました。

## 八郷支部

支部長 藤井政一(中四二回)

当支部の設立は昭和三十一年にさかのぼるが、設立の翌年、母校の野球部が甲子園出場という快挙をなすとげ、微力ながらその応援に努力したことは印象深い。

総会は、第二回を昭和三十二年九月に開いた後は、数年の間において開催するのが常であった。しかし、高校初期の卒業生たちが新

たな気力をつきこみ、昭和五十八年以降、毎年一回の総会を開くことができるようになった。しかし、会員百数十人のところ、出席は毎年三十人前後、特に会員の年齢差の大きいこの会においては、若い年齢層の出席を求めることが難しく、それが今後の会運営の大きな課題である。

総会は、毎年進修同窓会長と学校長の出席を得て、進修会の動向及び母校の躍進状況をお知らせいただいて、心強さを覚えている。特に平成九年には創立百周年を迎えるとのこと、その記念事業の構想に期待すると共に、関係者のご尽力に感謝する。

百周年誌に計画されている目次を見ると、時代変遷を感じるが、今後更なる発展により、第三編に計画される「躍進」を期待する。

## 土浦支部

小河原四郎(中三八回)

六月二十七日、平成七年度の土浦支部総会を学校長の青山和義先生(高八回)のご出席を載き、霞月樓に於て、三十名の参加者を得て開催しました。

まず支部長豊島貴氏(中三七回)より、今後とも会員各位の親密な交流を重ね、会の発展を計っていただきたいという挨拶がありました。ついで石川信廣氏(高十三回)より同窓会館の建設の説明があり、鶴町安正会計(中四三回)が平成六年度の決算報告を行って、全員承認を得ました。

相変わらずお元気な姿で出席された進修同窓会副会長長坂本吉光氏(中二八回)の乾杯の発声で杯をあげ、年一回の久し振りの集いに楽しい一時を過ごしました。私は毎回出席される会員の皆さん、また、久しぶりに出席された皆さんを拝見し、大いに意を強くした次第です。そして紅一点で出席した野村ルナさん(高十五回)は、御承知の通り母校の事務に勤めておられますが、日頃大変お世話になっていることを付記いたします。なお、土浦支部には六百名余りの会員がおり、全員に通知を出しています。どうか会員の皆さんの御理解により、ますます会の盛んになる事を祈ってやみません。

## 高津天川支部

鶴町安正(中四三回)

本会は昭和五十三年発足し、その直後より国分町、次いで永国町の同窓の方々を迎え、広範囲になつて現在に至り、会員(年会費納入者)は、二五〇名である。

毎年、総会は五月中旬の日曜日に開催され、本部同窓会より会長もしくは副会長、並びに母校校長の臨席を得、同窓会の動向、母校の近況が報告され、引き続き、事業・決算・監査報告と、その承認を行い、新年度の事業・予算案を審議・可決した後、在校中の話に花を咲かせる懇親会に入る次第である。

さて、本会は三本の柱を欠かすことなく実施している。一つは会

誌と名簿の発行であるが、これに

関しては、会員に協賛費をお願いし継続発行ができています。二つ目は地区内の家族ぐるみの親睦という

ことで、例えば「磯の香りと県北の秋、神峯公園と平潟港」「横浜博覧会と中華料理を楽しむ」「紅葉狩りとアンコウ鍋」というように、ファミリーバスハイクを実施し好評を得ている。もう一つは春・秋のゴルフコンペで、回を重ねる度に参加者も増えている。

美浦支部

当支部も平成五年七月に再建設立、活動を開始してから三年目を迎え、去る六月二十五日、阿見町島津の魚清にて総会を開催致しました。中三十六回卒から高四十三回卒まで、二十名の方々が種々多忙中にも拘らずご出席くださいました。

支部長は挨拶を兼ねて、進修同窓会の当面の重要事業である創立一〇〇周年記念事業について、去る三月十八日の評議員会に於ける資料を基に、現在の経過を報告し、記念事業の完成を目指して会員諸兄の強い、暖かい支援を要請いたしました。

なお、七月十四日開催された一〇〇周年事業実行委員会の資料の概要と設計要図等を添えて、本年度発行の「美浦支部だより」に登

載し、会員への周知徹底を図りました。

昨年の総会には、母校から北島瑞男教頭が出席され、親しく母校の近況等をお話しになり、非常に有意義でしたが、本年は、本部分都合で来賓のご臨席がなく、少し淋しさを禁じ得ませんでした。しかし、浅野勉先生(高一九回)に、母校の近況、一〇〇周年記念事業等について詳しくお話をいただいた

竜ヶ崎支部

本年度の支部総会は、去る八月五日、市内の料亭「崑仙」に於て本部より橋本事務室長をお迎えして開かれました。総会は和気あいあいのうちに進みましたが、話題は例年のことながら、数々の想い出をからませた母校の動向、次いで知り得た限りの情報のこと、そして支部活動に参加する若い会員が少なくないこと等でありました。特に、どの様な活動内容にしたら若い会員に支部への関心と魅力を感じさせることができるのか等、数々の案や例をあげながら熱心に話し合いが行われました。

また、本年は役員改選の年にあたり、本年度まで精力的に支部長の任にあたって来られました糸賀秀夫先輩から、高齢のため支部長を辞任したいとの申し出もあり、満場一致で新役員を選出しました。新役員は次の通りです。

- 相談役 糸賀秀夫(中二五回)
○支部長 島田一男(中四五回)
○副支部長 岩田伸之輔(高二回)
○副支部長兼事務担当 助川博夫(高二回)
○門倉修一(高二八回)
○黒田美智子(高二四回)
○神山直規(高三三回)
他に幹事・連絡員を各町内において、会員相互の意志疎通をはかることとなりました。

東京支部

平成七年六月九日(金)夜六時半より、東京プリンスに於て、東進会(土浦一高進修同窓会東京支部)平成七年度総会・懇親会が盛大に行われました。百二十余名と多勢の参加を得ることが出来ました。

第一部総会は東進会会長植木満氏の挨拶により始まり、式次第にのっとり順々と会が進行されました。青山和義校長先生から、母校の近況と活躍ぶりを聞き、後輩達の頼もしい実績に感心しきりといったところでした。副会長の土方登志子さんの言葉で第一部が閉めくくられ、次いで第二部懇親会に移り、なごやかなうちに歓談が進みました。一年振りにもみる顔々。今年の一年も実に早かったと思われました。両国相撲甚句会により「触れ太鼓」が始まると、会場は一瞬静かになり、伝統芸に聞き入りました。一体感が盛り上がるなか、校歌が力強く歌われ、後に副会長落木修氏より来年も又会いしましょう

うと力強く閉会の言葉が宣されると、出席者は名残り惜しい雰囲気

県庁支部

県庁支部は、五月三十一日に土浦市内で総会を行い、石井一男会長(企画部参事)以下、副会長一名、幹事十名、監事二名の新たな役員を選出したところだ。

県庁支部が結成されたのが昭和五十四年四月。支部結成後十八年が経過、現在の会員数は約三四〇名。昭和二十九年卒業生から平成三年卒業生まで、支部会員の構成年齢も広範囲にわたります。支部が結成された頃には、一番若い会員は母親から乳離れをしたばかりです。幹事の多くも土浦一高に在学中か、卒業して間もないころのことです。

総会では、卒業年次に関係なく、在学当時の思い出話や恩師の近況についての情報交換を行います。話が、話がある程度かみあうには、前後五年位の先輩・後輩の関係でないと難しいようです。

毎年、総会では校長先生に御足労いただき、現況報告(進学状況等)をお願いしていますが、母校の躍進ぶりを至極当然といった顔で聞いている支部会員もいれば、驚きをもって聞き入る会員もいます。その受け止め方は人様々のようです。

柴崎太郎(高三十回)

会費納入のお願い

今号より会員の皆様が会費を納入しやすきように、振替用紙を同封致しました。引き続き納入方お願い致します。なお紙面の都合上、次号より会費納入者芳名簿は割愛させていただきます。ご了承願います。

Table with 2 columns: 平成7年度年会費納入者 (平成7年8月31日現在) and 平成7年度終身会費納入者 (平成7年8月31日現在). Lists names and amounts.

Table with 2 columns: 平成6年度年会費納入者 (同窓会会報第51号掲載以降) and 平成7年度年会費納入者 (平成7年8月31日現在). Lists names and amounts.

# 進修同窓会定時制部会

定時制部会長 柳沢正男

私達定時制卒業生は千六百名を越え、土浦一高卒業生全体の二割を占めております。その人達の代表として、桜井光孝(副会長・四回卒)、坂根光夫(本部幹事・四回卒)、柳澤正男(本部幹事・七回卒)、草刈宏明(本部幹事・十回卒)の四名が進修同窓会の役員会に加わり、現在行われております創立百周年事業・総会等の会議に出席致しております。私達は、土浦第一高等学校定時制の卒業生の代表であるとの自覚を持って行動しておりますが、皆様の情報がもう少し有るならばと思います。

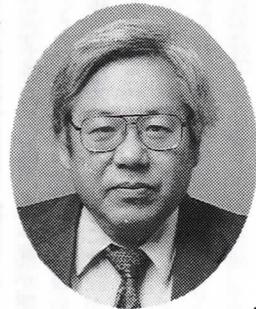
定時制部会では、年一度の総会を行っております。毎年四月第二日曜日に、校内の給食室に於て、午前十一時より総会の場で、卒業二十五周年、四十周年の人達を祝福し、総会終了後食事をとりながら、お互いの親睦をかわしております。その後体育館で行われる進修同窓会の総会に参加して、土浦第一高等学校の卒業生であるとの意識を新たにしております。また、定時制部会の活動としては、入学式、卒業式、そして先生方の歓送迎会など、年間五〜六回の行事に参加しておりますが、後輩達も運動が盛んで、全国大会に毎年県代表として参加し、OBの心尽くし

でできた後援会の援助によって、好成績を上げております。入学者も定員を満たし、現在、百余名の在校生が勉学に励んでおります。

さて、縁あって土浦一高定時制に入学し、努力をして卒業した同志である皆様にお願いがありません。定時制全体のOBの集いが出ればと思います。まず、各回ごとと同窓会を開いて頂ければと思います。私達第七回卒も、数年前より、一年に一度の同窓会を開いております。五十才を過ぎて人生の決算期を迎え、限り有る人生を有意義に過ごす為にも、永遠の友として、素晴らしい交際をすべきだと思っております。しかしながら、最近同窓の要である各回の幹事の人達の意識が心配になります。通知をしても返事はないし、呼びかけても出席がない。困ったことです。これでは同窓会どころか、各回の人達に情報をスムーズに流すことも出来ません。卒業してから数十年も過ぎると、幹事の事情にも変化が起ると考えられますので、幹事役の見直しなどを考えていただき、同窓生の横のつながりを大切にして、仲間としての意識を盛り上げて下さいませようお願ひ申し上げます。

# 生徒たちの健全な成長を

PTA会長 岩波嶺雄



今春の総会において本年度のPTA会長に就任し、来春までの一年間、その重責を担わせていただくことになりました。微力ではありますが、わたし自身の母校でもある土浦一高の発展のために努める所存でございますので、会員の皆様の温かいご支援・ご協力を心からお願ひ申し上げます。

高校時代は、生涯で一番心身ともに柔軟性のある時期だと思います。学力はもちろん、広い社会的な視野とさまざまな課題に挑戦する創造性を育むうえでも、大切な時期だと思えます。半面、岡山で先日開かれたPTAの全国大会の講演において、作家の五木寛之氏が「暗愁」という言葉を何度も用いて指摘されていたように、将来の進路や友人関係など、迷いの多い多感な時期でもあります。

いじめや自殺、オウム教問題など、社会的事件の当事者になってしまふことも希ではありません。五木氏の講演は、子どもたちと痛みを分け合おうという呼びかけに聞こえてくるように思えます。

PTAは、生徒たちの健全な成長をめざす学校教育の円滑化のために、教職員の皆様と協力しながら活動しているわけですが、以前から子は親の鏡、社会の鏡といわれ、今日では生涯学習の時代といわれるなか、わたしたち自身の日頃の研さんが、いよいよ大事になってくると思います。

# 「進修」育ちの文人たち

(3)

柳生 四郎

つていのです。五木氏の先の講演が、PTAの会合で行われた理由も、そこにあるのだと思えます。本校は特に学習・進路面において、全国でも指折りのすばらしい成果をあげ、各方面から注目されていますが、二年後には創立百周年という実に輝かしい節目を迎えます。この間の伝統の重みに思いをめぐらせながら、次の百年の歴史の創造ということ、関係者の一人として皆様とともに考えていきたいと思えます。

下村千秋は高田保と同級で、中学第十二回(大正二)の卒業、在学中、荒川本郷から毎日真鍋台の中学に死にも狂いで歩いて通学した。真鍋旧国道を上り下りした体験を「進修」に小説風に書いていて、これらで、のち作家となる片鱗をうかがうことができる。同級生の間では「下村は「直角」とあだなされた。その下村が中学の五年生ごろは、完全に文学少年になり切っていたといわれていた。早稲田大学に進んでからは同志と「十三人」誌を発行して作家生活に入った。第一作「刑罰」(聚芳閣、大正十三)で作家としての名乗りをあげた。はじめ、「故郷」「父をかこんで」などの農村生活を描いたが、『瀕死の浮浪者群』『明るい

暗黒街」などを発表し、ついで『街のルンペン』を発表した。これが爆発的な人気を博し、「ルンペン作家千秋」は、「ブラリひょうたんの保ちゃん」の高田保と併称された。ほろきれのように社会から捨て去られたみじめな浮浪者を主題としたもので、彼の純粋なヒューマニズムに貫かれたものである。下村にはまた多くの童話の作がある。これは愛娘に読んでかきかせるために書かれたもので、優しい父性愛をくみ取ることができ

阿見町図書館に一切の著書資料が寄贈され「下村千秋文学コーナー」が設けられ、彼の一代の仕事を見わたせるようになってい

### 県特別功績者に 幡谷祐一会長

茨城県が新たに制定した「県特別功績者表彰」を、幡谷祐一氏(中四十回)が受けられた。表彰は、平成六年十一月に行われたが、これは、「県内の中小企業の指導・育成をはじめ、県民生活の安寧、国際交流など各分野において幅広く活躍し、県勢の発展に著しく寄与した」との功績が高く評価されたの受賞である。

氏は、大正十二年東茨城郡小川町に生まれ、大学卒業後、家業の醤油醸造業に従事したのち、茨城トヨペット株式会社を経営。現在も、茨城県信用組合理事長、全国信用組合連合会副理事長、県中小企業団体中央会副会長などの要職に就いておられる。また、進修同窓会会長として、本校の百周年に向け、力をそそいでおられることは、卒業生のすべてが知るところでもある。

昨年十二月、同窓生有志によって催された受賞祝賀会で、氏は、その心境を次のような律詩に託しておられるので、最後に紹介しておきたい。

#### 感懐

頭官友朋集 為吾設賀筵  
稱讚余小功 感激淚濕襟  
名譽豈独我 功帰友荆妻  
霜月賜五賞 人生如斯稀

### 鶴岡義雄氏 芸術院会員に



鶴岡義雄氏(中三六回卒)が、平成六年十一月、日本芸術院会員に就任された。氏は、本校から日本美術学校に進み、昭和十六年、美術学校卒業と同時に二科展に初入選。現在は、二科会常務理事、フランスのサロンドートンヌ会員で、わが国洋画会を代表する画家の一人である。

氏の絵は、はじめ風景が中心であったが、その後渡仏をきっかけに、「マドモアゼル」連作を発表。一九七〇年代には、「舞妓」シリーズに取り組み、日本の伝統的様式美に満ちた「紙風船」「帯」「舞う」などの大作を次々と発表し、平成二年には日本芸術院賞を受賞している。また、長年の功績に対して、平成五年、勲四等旭日小綬章が授与された。今回は、第三十回茨城賞も受賞され、二重の榮譽に輝いた。

旧制中学時代の氏は、白い鼻緒の高下駄に黒マント、破れ帽子の俗に言う「硬派のバンカラ」だったそうだが、これは、黒を基調に抑制された陰影と余韻の中に舞妓

の姿を描き出した氏の作品と、一脉通じるところがあるのかもしれない。

### 高20回卒渡辺孝男氏 参議院議員に当選



渡辺孝男氏(高二十回卒)は、去る七月二十三日の参議院選挙において、新進党比例区より立候補し当選した。四十五才。

渡辺氏は、昭和二十五年二月石岡市に生まれ、土浦一高を卒業後東北大学医学部に入學。附属脳疾患研究施設脳神経外科において、鈴木二郎教授、吉本高志教授に師事し、昭和五十五年日本脳神経外科学会専門医となる。昭和五十六年、脳卒中(脳梗塞)の研究で東北大学医学博士号を取得する。

その後、厚生技官(国立療養所宮城病院・国立仙台病院)、文部技官(東北大学医学部附属脳疾患研究施設脳腫瘍部門助手)などを歴任。マイアミ大学に留学する。

昭和五十七年、米沢市立病院脳神経外科医長として赴任、地域医療の第一線で活躍する。手術室長、第二診療部長、東北大学医学部非常勤講師などを務め、平成七年三月退職、日本の医療行政の改革を

目指し現在にいたる。

今後、これまでの診療経験を生かし、脳死問題と臓器移植をはじめとして、保健医療・社会福祉を中心に活躍することが期待されている。「一高健児」の意気と情熱を国政の分野で示して欲しい。

### 中二六回卒六十七 周年記念同窓会

中二六回

奥井 三郎

母校創立一〇〇周年記念事業募金の趣意に沿って、平成六年十月十四日に卒業六十七周年記念同窓会を開催した。

参加者は九名に過ぎなかったが、当日は絶好の秋日和に恵まれ、会場の小林君の自宅ビル九階から霞ヶ浦を一望することができ、澄み切った青空そして出島方面の三又沖の水平線、周辺の美しい風景に、同窓生はしばしの間見とれてしまった。

本日の議題である一〇〇周年記念事業の募金については、三月末頃を払込期限として主催者側の目標額を達成するようお互いに協力することになった。

同窓会を終了した後、母校を訪ねて橋本事務室長さんをお見え、土浦一高創立以来初の学士院賞を受賞した神立誠君(東京大学名誉教授)の受賞額を国指定重要文化財日本館資料室に展示する件と、東郷正延君(元東京外語大露西亜語科教授)の編集した露和事典、こ

れは奇しくも同君が土中「二十六回」卒業であり、「二十六年」の永い歳月を費し、「二十六万語」を収録した「二十六」のトリプルによって完成したものであるが、この事典は、我が国の学会においても誠に貴重なものなので、これも資料室に展示すべき件を話し合った。

### 祝叙勲(生存者)

勲四等旭日小綬章

桜井 三郎 (中42回)

取手市井野二一八四一二

勲四等瑞宝章

宇田川 仁 (中39回)

土浦市真鍋二一―一三四

勲五等双光旭日章

中山 繁雄 (中27回)

水戸市南町三三四一五

勲五等瑞宝章

片岡 四郎 (中41回)

つくば市柴崎四九七一二

桜井 明 (中42回)

石岡市府中三一―二一六

# 母校だより

## 第二十六回歩く会 雨天のなか決行

平成六年十月二十九日、第二十六回歩く会が雨天のなか決行された。今回のコースは「つくば・学園一周コース」と題して、荒川沖のジョイフル本田を出発、学園都市を経由して、最終目的地亀城公園を目指して歩くというコースであった。

しかし、このコースが決まるまでには、数々の実行委員達の苦労があった。まず全校生徒にアンケートをとり、どこを歩きたいかを尋ねた。そこで多かった「岩間・八郷、山登りコース」と「牛久・阿見、牛久大仏めぐりコース」を夏休みに実行委員達で下見した。しかし、この二つのコースとも、土浦からの距離や、コースの総距離の問題から、実現は困難と思われた。そこで、担当の先生方とも検討した結果、今年の「つくば・学園一周コース」が決定した。しかし、実行委員はその後、何度かコースの下見・点検を行い、またコースに設置する看板作りや、チェックポイントのための全学年分の名簿作りなど、生活のかなり時間をこの「歩く会」の成功のために費やした。

当日は、あいにくの天候であったが、ケガ人もなく、大成功を収めた。

めることができたのは、実行委員達の陰の努力と、先生方の協力があったこそだったと思う。

第二十六回歩く会実行委員長  
矢野 聡

## 熱気溢れる学園に 若人の力爆発

### 第四十八回一高祭

夏も盛りを過ぎ、涼しいそよ風に身を置く中で受験勉強に心を悩ましつつ、短い期間ではあったが、あの熱く燃えたぎった日々のでき事を、今静かに思い返している。

振り返れば、例年同様に準備期間が恐ろしい程少なく、やっと一週間前になって一高祭も間近だと思える雰囲気になったように思う。しかし、その一週間は各委員にとつてまさしく戦場で、家には眠るためにだけ帰るような有様だった。まだ短い人生だが、これ程時間がたつのを恨めしく思ったことはなかった。

やっとのことで、「アツと言う間に」と言うべきか)迎えた本番開祭式に起こった突然のハプニング、ブレイカーが落ちたこと以外は、さしたる障害もなく三日間を無事に進行できたことは感無量であった。

さて、今年の企画は、基本的に昨年度の一高祭をある程度継承

したものの、「TRY IT ON (可能性をぶち破れ)」と言うテーマのもと、独自色を出せたと思っている。そして、第四十八回一高祭は、主役たる生徒一人一人の活躍によって、成功を収めたものと信じている。

まず、六月二日、一日目の合唱祭では、バイオリンの腕を披露した先生もいらしたし、二日目・三日目には、今年で本当に最後である旧講堂において行われた「のど自慢」と、今年新たに設けられた部活動対抗企画で盛り上がり、赤



の広場で行われた「デイベート」でも、優勝クラスが、社会科教師陣と「発展途上国の発展と環境」について議論するというおまけつきであった。また、新体育館での演劇祭や模擬裁判など見どころは多かった。それだけに、校舎内の企画が手薄に感じられたことは残念だった。

他にも、私の未熟さから、準備段階で余計な苦勞をしたことや、本番前の詰めが甘かったことなど、反省するところも多くあり、物事をやり遂げることの難しさを

おおいに学びとった、そんな三日間だった。

ともあれ、土浦一高は、五月下旬から一高祭が終わるまで大変な熱気に包まれ、その力を爆発させたのだ。そして、それは来年も再来年も確実にやって来ることでありと信じている。

今、あの頃の熱気はどこに消えてしまったのかと思える程静かな静かな教室、死ぬ程忙しかったあの頃をまるで夢のように感じる。皆が輝いていたあの時は、もう当分やってこない気がする。

第四十八回一高祭運営委員長  
針生 健一郎

## 平成六年度

### 運動部主な成績

- (バトミントン)
  - 関東大会県予選団体戦 第五位
  - 関東大会出場
  - 2-1 一回戦 勝利
  - 0-2 二回戦 敗退
- 県高校秋季大会個人戦優勝
- 佐野 智久
- (水泳)
  - 関東高校水泳県予選男子背泳ぎ 第四位

## 平成七年度前期

### 運動部主な成績

- (硬式野球)
  - 夏季全国大会県予選
  - 対佐竹高
  - 4-0 一回戦 勝利
  - 対勝田高

3-2 二回戦 勝利

・対常総学院高

0-4 三回戦 敗退

(軟式野球)

春季関東大会県予選

・対東洋大牛久高

8-0 (七回コールド) 一回戦 勝利

・対茨城高

3-1 二回戦 勝利

・対石岡一高

1-3 三回戦 敗退(ベスト8)

(陸上)

関東大会出場

100M 野崎 礼史

(ヨット)

関東大会出場(於 江の島)

男子FJ級 東海林・高瀬組

(現2年)

国体出場(於 福島)

女子FJ級 土田・村山組(現2年)

## 定通陸上

### 二年連続優勝!

八月十一日(十三日)、国立競技場で定通陸上競技大会が行われ、本校定時制四年生の坂田真弓が、去年に続き砲丸投げと円盤投げに出場。砲丸投げは九m五十九でみごと優勝、円盤投げも二十五m四で第四位に入賞した。

もう少し記録を伸ばして大会記録に迫りたかったが、夏場に体調を崩し一ヶ月練習を休んでしまったのが惜しい。しかし、砲丸投げ二年連続優勝は快挙と言える。

国立・私立大共に満足すべき成果

東大現役合格者数は全国第二位(公立高校)

平成7年度大学入試報告 進路指導部

平成7年度入試は、昨年度に続いて、極めて満足すべき成果を納め、本校生徒の実力が年々向上しつつあることを如実に証明したものと...

前・後期共に成功した国立大受験

国立大学入試では、東大合格が昨年度より三名増となり、公立高校での現役合格者は、昨年同様全国第二位にランクされた。

地元筑波大は、例年のごとく抜群の全国第一位の合格者数であった。

北大、東北大合格も、記録更新の実績になった。全体的に難化した平成七年度入試で、東工大、千葉大、東京外語大、一橋大、お茶の水女子大など、難関国立大で多数の合格者を得た本校生の実力は、全国のトップの進学校の注目するところとなった。

国立大志向強まる

景気の低迷が長引き、不況感が定着し、受験人口の減少期ということもあって、国立大志向は、昨年以上に強まった。本校でも年々国立大受験が増加している。

理系学部への女子の進出顕著

医・歯・薬学部系統も相応の合格者を得たが、本年度は、特に現役理系女子の奮闘が注目された。女子生徒のライセンス志向、実

学志向は、不況と、とりわけ女子大生の就職難と無関係ではない。就職には理系有利とか、資格に直結した医・歯・薬・看護・医療系が有利などと言われ、理系学部への女子の進出は全国的な傾向でもあった。

私立大でも記録を更新

私立大受験でも本校生徒の実力は遺憾なく発揮された。慶応大、青山学院大、津田塾大などは、合格数・現役合格数ともに新しい記録であり、更に現役合格数で立教大、東京理科大学、早稲田大などが記録を更新した。

国立大大人気は、裏を返せば私立大の志願者減となって表れている。首都圏のある難関私立大では、昨年比で六八〇人の志願者減に對し、一五二人の合格者増というようなことがあり、首都圏私立大の合格ラインは、やや下降気味と言えらるかもしれない。

しかし、油断は禁物である。本校の進路指導も更なる躍進を期して、兜の緒を締め直し、大いなる努力を継続したいと思う。

平成7年度入試 大学別合格者数

Table with columns for University Name,合格数 (合格数), 新卒 (新卒), 日卒 (日卒), 平均 (平均). It is divided into sections for National Universities (国立大学), Public Universities (公立大学), and Private Universities (私立大学), with further sub-sections for various faculties and departments.

新卒：平成7年3月卒業生 (普通科47回, 理数科24回) 本表は平成7年度入試で合格者の出た大学のみを掲載した。空欄は0である。平均は平成2~6年度入試までの5年間の合格者数の平均値である。

# 環境体験学習とは...

## 第一学年共同宿泊学習レポート

われわれ第一学年では、学習を第一目標としながらも、現在の社会状況を鑑みて、社会のリーダーとなつていかねばならぬ土浦一高生にとつては、人間形成や人格教育が重要だと考えてきました。この考えの下、平成七年度には二つの行事を計画しました。その一つが、今回の環境体験学習（共同宿泊学習）であり、もう一つは、秋の芸術鑑賞です。

特に前者につきましては、四月のはじめから夏休み直前まで、合計十三回にわたって学年会で話し合いがなされてきました。なぜならば、我々の目的としていたことが、この行事を通して自然環境の大切さを自分の肌で理解してもらうこと、そして、計画・研究等なるべく生徒自身に任せられること、その自主性を少しでも高める



こと、さらには、友情や団結心をも育成したいという、欲ばったものであったからです。幸い前の学年でも、やはり一年の時に環境体験学習をやっておりましたので、その経験を生かしながら、何とか当日を迎えることができました。

まず八月一日初日には、A組が八木沢ダム周辺の環境問題、B組とI組が足尾銅山の公害問題、C組が原発問題、D・F・G組が奥日光の「立ち枯れ」の問題、H組が霞ヶ浦の水質問題、E組が戦場が原の環境問題に取り組みました。ここでは、一人一人の些細な行いの蓄積が、自然に対してどのような影響を及ぼしてきたのか身をもって知り得たはずですが、

八月二日は、体験学習の後半として、尾瀬のすばらしい湿原を味わいました。よく「神様がほっか



り残してくれた」と形容される見事な自然に、生徒諸君も大変感動したようです。ニッコウキスゲの美しさが、誰の目にも強く焼き付けられたことでしょう。自然を守ろうという気持ちは、人間に対するやさしさにもつながります。大切なものを守りたいという心は、本心に心を動かされるようなものに接してこそ、生まれるのではないかとこの思いを強くしました。

いよいよ八月三日は最終日です。この日は一日、クラス毎の自由行動でした。牧場に行つてパーベキューを楽しんだり、遊園地に行つてジェットコースターに乗り大声をあげたりしながら、夏休みのひとときを元氣よく過ごしてきました。これは無駄のようですが、このような時間こそ、現代においては必要なのだと確信した一日でした。生徒諸君の感想文を見て、何かしら学んで帰つて来たことがわかります。

ある先生が、しおりの綴じ込みの時に、「今回の環境体験学習が、こんなに大変だとは思ひもよらなかった」という感想を呟いたのが心に残っております。しかし、この体験を基にして、生徒諸君が社会の中で何を思いやる心を持ち、前向きに学校生活にも取り組み、勉強やその他の活動に、今まで以上に生き生きとした姿を見せてくれるならば、我々も苦勞の甲斐があったというものです。

第一学年主任 結城 治夫

### 平成八年度総会・卒業周年祝賀会開催の案内

進修同窓会総会は、規約により毎年四月第二日曜日に開催することになっております。平成八年度は、四月十四日(日)午後一時から母校体育館に於いて開催します。当日、併せて卒業六十周年(中三五回)、四十周年(高八回・定六回)、二十五周年(高二二回・定二〇回)の各学年の招待祝賀会を行います。なお、終了後、市内にて合同祝宴を開きます。

#### 進修同窓会会務分担

- 一、本部
  - 総務(会議の招集と設営・進行)
  - 豊嶋、矢口、酒井、木島、小野
  - 説田、谷中
  - 経理(予算の編成と執行、決算、諸会費の徴収)
  - 坂本、鶴町、倉持、中川、柴沼
  - 小城、石川、事務部
  - 会報(会報の編集と発行)
  - 遠藤、木島、谷中、堀越、横田、宇田川、宇田、鈴木(志)、鈴木(淳)
  - 名簿(名簿の編集と発行)
  - 坂本、梅沢、高橋、小網、柳沢、野村、谷中、草刈、小城
  - 事務局(事務の連携)
  - 横田、大曾根、桜井、谷中、野村

※右記に教頭、校内幹事が入る。  
監事(本会会計の監査)

- 丸木、野山
- 二、支部担当(副会長)
- 遠藤 筑波、桜、大穂、豊里、真壁、八郷
- 坂本 真鍋、土浦西、都和、千代田、石岡、美野里
- 豊嶋 土浦、虫掛、小松、潮来、谷田部、玉造、麻生
- 横田 出島、上天津、新治、高津、天川、小川、玉里、牛久大曾根 荒川沖、阿見、竜ヶ崎、美浦、柏
- 植木 東京、湘南、東海、関西、日本海
- 幡谷(浩) 水戸、岩間、日立、仙台、北海道
- 桜井 定時制部会

#### 役員の変更(七年四月九日付)

- 【退任】 監事 鈴木輝雄、副会長 (教頭) 北島瑞男、同 栗田幸一
- 【就任】 監事 野山 茂、副会長 (教頭) 中島雅之、同 中村昌平

#### 編集後記

記録的な猛暑がうそのように、爽やかな日々が続いています。七月に始めた編集作業も、どうにか目標の時期に終了しほっとしています。ただ、多数お寄せいただいた原稿には、紙面の関係で手を加えさせていただきました。ここにお詫び申し上げます。また、叙勲の報は、何らかの形で通知のあった方のみを掲載いたしました。さて、ここ二年間十月に会報を発行したのですが、次回は、平成八年七月に発行する予定です。